

令和 6 年度 学校評価書 (計画段階)

福岡県立 城南 高等学校

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>未来を切り拓く力を持ち、広く社会への貢献を志す有為な人材を育成する学校</p> <p>独自のキャリア教育プログラム「ドリカムプラン」や理数教育の充実を通じて、自らの進路実現に向けて常に先を読みながら行動し、社会貢献を志す人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>生徒主体の学習活動や校外外の多様な体験プログラムを通して、「自らの人生を何に使うか」という使命を自覚し、それに基づいた進路の実現に向けて粘り強く行動することで、「未来を切り拓く力」を育む教育を行う</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>主体的な学びを中心にする授業の改善を図るとともに、教育課程の開発を行う 進路学習(ドリカムプラン)と課題研究(ESD探究)の両立を図る「総合的な探究の時間」を実施する 理数教育の充実を目指し、課題研究(理数ゼミ)を通じた高い課題解決能力の育成を図る</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>自分の進路を見つけないといけない生徒</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>進取の気象を有し、明朗にして端正で、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p><令和5年度の成果> ○新型コロナウイルス感染症の取り扱いが第5類へ移行したこともあり、全般的に活気あふれる教育活動を展開することができた。 ○ICT機器を活用した授業などコロナ禍で一気に前進した教育活動を発展させることができた。 ○ Teamsを活用することによって、職員間の情報共有をスムーズに行えるようになった。 ○ GoogleClassroomを利用することによって、朝のSHRが効率よく実施できた。 ○ 授業実践発表を複数回実施することができ、授業改善に資することができた。 ○ ESD探究等を通して、ますます変化する社会において求められる資質・能力を意識させることができた。</p> <p><令和6年度に取り組むべき課題> ○ Chromebookや様々なICT機器を活用した授業改善を推進する。 ○ 生徒の規範意識や安全意識を高めるには生徒による自浄作用が必要だと感じる。その自浄作用が働く環境を醸成する。 ○ 学校行事がより生徒主体のものとなるよう、適切な支援を行う。 ○ 超過勤務縮減の手立ての一つとして、教材の共有について各教科で推進する。 ○ 広報活動の対象を、中学校だけでなく塾や小学校へと広げる。特に、小学校に対してはSSH関連の実験教室や小学生対象の説明会の実施を検討する。 ○ HPをシステム変更に伴い一新する。SNSを活用した情報発信を積極的に行う。</p>	<p>1 人権が尊重される学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりの推進</p>	<p>ア 各学期初めの二者面談を充実させることで、学級内における良好な人間関係を構築させる。 イ 生徒一人ひとりの自己肯定感を育てるとともに、生徒相互が協働し成長できる教育プログラムを充実させる。</p>	
	<p>2 能動的な学びとICTを活用した学習の効率化の推進による学びの質の向上</p>	<p>ア 学校設定科目「ESD探究」「理数ゼミ」を中心に思考力、判断力、表現力を身に付けさせ、教科横断的に能動的に学ぶ力を育成する。 イ ICTを活用し生徒の学習到達度に応じた個別最適な学びを支える環境構築を各教科で目指す。</p>	
	<p>3 新学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習評価の実施とルーブリックの開発</p>	<p>ア ルーブリックを生徒に提示することで、観点別評価を適切に実施し、授業改善及び生徒の学習改善を行う。 イ 質の評価ができるようなルーブリックとなるよう、その改善を図る。</p>	
	<p>4 生徒の多様性に配慮した指導の徹底と組織的な支援の充実</p>	<p>ア 各学年と生徒支援課の連携を深め、学校全体で情報を共有することで生徒一人ひとりに対する組織的な支援を充実させる。 イ 学校関係者と関係諸機関と連携し適切な支援を行う。</p>	
	<p>5 進路学習と課題研究(ESD探究)の両立を図る総合的な探究の時間の開発</p>	<p>ア 生徒主体の学習活動や校外外の多彩な体験プログラムを通して、未来を切り拓く力を育む。 イ 学校設定科目「ESD探究」、「理数DS」、「理数ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」のカリキュラム改善を更に進める。</p>	
	<p>6 DXの推進による超過勤務の縮減と生徒と向き合う時間の確保</p>	<p>ア 生徒・保護者への案内文書の配布やアンケート等をウェブで実施する。 イ 各教科において、教材をデジタル化し共有できるようにする。</p>	
	<p>7 心身のバランスのとれた合理的かつ効率的・効果的な部活動の推進</p>	<p>ア 生徒が主体的に活動し、体力を向上させると共に他者を尊重し協働する精神や公正さや規律を尊ぶ態度等、豊かな人間性を育ませ、社会貢献できる人材の育成を目指す。また、短時間で効果が得られるよう工夫する。 イ 部活動で身に付けた力を毎日の生活の中で発揮させ、学校生活での様々な課題を解決できる力を育成する。</p>	
	<p>8 SSH第Ⅳ期に向けた取組の深化と即興型英語ディベートの推進</p>	<p>ア これまでの成果と課題を踏まえ、さらなる内容の充実と成果の普及を学校全体で取り組む。 イ 第Ⅳ期の計画を組織的に推進する。</p>	

評価項目		具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の項目等	生徒、保護者対象のアンケート (外部アンケート等)の結果等	
教育推進部門	教務部 教務課	授業改善	学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善 生徒の進路実現に繋げる授業改善と観点別評価の研究を継続する 個別最適な学びに繋げる一人一台端末を活用した授業方法の研究と実践を推進する	授業アンケート及びSSH事業におけるbefore&afterアンケートによる実態把握		
		生徒の自己管理能力の育成	社会に求められる人材たる自己管理能力の育成 各学期当初の面談週間を通じ心身ともに基本的な生活習慣を確立する 三者面談による学校と家庭の連携の強化と信頼関係の構築を図る			
		能動的に学ぶ生徒の育成	読書や表現活動を通じ能動的に学ぶ生徒の育成 読書奨励と探究活動促進により情報活用能力と批判的思考力を育成する 城南歌壇コンクール実施により表現力・発信力を育成する			
	DX推進部	生徒1人1台端末の活用	生徒のICT機器の活用能力の向上 GoogleClassroomを活用し情報共有・伝達の円滑化を図る Chromebookを活用した協働活動を実施する	学校生活アンケートによる実態把握		
		ICT機器の活用方法の開発・研修	教員のICT機器の活用能力の向上 観点別評価やリアテンドメントに係るICT機器の活用を促進する ICT支援員と連携したICT活用研修を定期的に実施する			
		ICT機器やネットワーク環境の整備	業務削減に繋がるICT機器の活用 ICT機器やアカウントに関する管理体制の見える化を図る e-メッセージを活用し、保護者への案内文書を送信する			
	研修部	職員研修の充実	本校の教育課題に即した職員研修の充実 職員のニーズを踏まえた研修を企画し実施する 各分掌と連携・協力して、時機に応じた研修内容の充実を図る	授業アンケートによる実態把握		
		授業改善の推進	ICT機器の活用を含めた授業研修の充実 教務部・DX推進部と連携し、ICT活用授業の研修を推進する 研究授業を中心として、相互授業参観を促進させる			
		人権教育・主権者教育プログラムの充実	社会参画の力を育む教育プログラムの充実 人権を尊重する心を育む人権教育プログラムの充実を図る 18歳成年を踏まえた主権者教育プログラムを充実させる			
	生徒育成部門	生徒育成課	安全指導の徹底	自転車マナーと安全意識の向上 交通法規を遵守し、安全に登下校できる環境をつくる 他人に迷惑をかけない行動力を身につけさせる	学校生活アンケートやいじめアンケートによる実態把握	
			生徒の主体的活動の充実	学校行事・部活動の活性化 学校行事を通じて主体的に活動するとともに協働する力を養う 部活動で培った力を学校行事や日々の生活で発揮させる		
			端正を重んじる態度の育成	端正とは心の在り方であることの共有 情操・情緒が豊かで安定した状態をつくる 校訓の定める端正を周知徹底させる		
生徒支援課		情報共有の強化	分掌間での連携を密に行い生徒が安心して学校生活を送れるような支援 情報交換における早期対応と連携強化を行う 特別支援教育に関する関係者および関係機関との連絡調整を行う	学校生活アンケートやいじめアンケートによる実態把握		
		生徒の健康の保持増進	心身共に健康で健やかに成長できる環境の整備 日常の健康チェックを意識させ自己健康管理ができるようにさせる 保健委員会活動を通じて組織的な健康管理に関心を持たせる			
		美化意識の向上	日々の清掃活動を通じて健康な生活を送ることができるよう協働する力の養成 整備委員会を中心に清掃活動への啓発を図る HR活動を通してゴミ縮減と分別ルールを周知徹底させる			
進路企画部門	進路指導部 進路指導課	進路指導	進路指導力の向上 新たな学びに基づく入試研究とそのことを反映した授業を推進する 大学等を取り巻く環境に関する情報を共有する	学びの基礎診断テストに付随する進路意識アンケートによる実態把握		
		進路行事	主体的に活動する仕掛けづくり 既存の進路行事の意義を確認し改善を図る 1学年の文理選択に関する進路学習を充実させる			
		進路実現	高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成 職員間で生徒情報を共有し、組織的にサポートする体制づくりに取り組む 総合型・推薦型入試に向けた指導体制を構築する			
	SSH部	学校設定科目の改善実施	デザイン会議、理数会議、トライアル会議での検討 デザイン会議や理数会議で昨年度からの改善事項を共有する トライアル会議で教員の指導力の向上を図る	SSH部実施BeforeAfterアンケートによる実態把握		
		成果の発信	広報誌や開発した教材の発信 城南SSHを毎月発行する 開発した教材をHP等で発信する			
		第Ⅳ期の申請	組織的な検討と申請 先進校視察を行い、全国の良い取組事例を学ぶ 第Ⅳ期の準備委員会を立ち上げ、検討を行う			

庶務 広報課	庶務	教育活動円滑化のための整備	式典の円滑な実施のための立案、他分掌との連携を図る 文書記録、資料の整理・保管等、効率的な処理に努める		
	広報活動	本校志願者獲得のための広報活動	中学校との連携のため、学校訪問や出前授業等の円滑な処理に努める 本校の教育活動を反映した広報資料の作成を円滑に行う		
	PTA活動	PTA活動の円滑な運営	校内のPTA活動の円滑な運営に努める 高P連・本校同窓会等、外部の団体との連携を円滑に行う		
学年部	第一学年	基本的な生活習慣の確立	出席皆勤の奨励	時間や体調等を含めた自己管理能力を育成し、出席皆勤を目指す 安全指導と規律ある集団活動の徹底を図る	学校生活アンケートによる実態把握
		信頼関係の構築	教師と生徒・保護者の信頼関係の構築	様々な教育活動を通じて、生徒と同じ時間を共有することで生徒理解に努める 個人面談を充実させるとともに三者面談を通じて保護者との連携を強化する	
		進路意識の育成	希望進路の早期明確化	HRや学年集会等を活用し、自己の適性に合った希望進路を模索させる HRやESD探究を活用しながら高い志を持った進路意識の喚起に努める	
	第二学年	基本的な生活習慣の確立	朝の速聴リスニングへの参加奨励	朝登校してきた生徒に対して、学年団による声掛けを行う 朝リスの時間に登校した生徒の出席シートを作成し、参加状況を可視化する	学校生活アンケートによる実態把握
		進路意識の育成	志望進路の明確化	様々な行事・活動への参加を促すことで、興味関心のある学問・分野の気付きを促す 機を逃さず二者面談を行うとともに、三者面談を充実させる	
		授業の充実と学力の向上	基礎学力・基本事項の定着	日々の時間の使い方について、記録させ教員と共有することで、有意義なものにしていく 適切なDX推進とともに個別最適な学びを通じた主体的な学びを育む授業を実施する	
	第三学年	社会で生き抜く力の育成	社会人基礎力の向上	行事や進路においてその目標達成に向けて考え抜き、前に進む力の育成を目指す 学校行事、授業の場面で他者と協力し、課題を解決する力を育成する	学校生活アンケートで充実度を量る
		進路志望の実現	第一志望の決定と貫徹	1学期中には第一志望を決定させ、生徒を励まし続ける学年団を目指す 定期的な学年会と進路検討会で、生徒の情報交換を密に行う	
		信頼関係の構築	学校・生徒・保護者間の信頼関係の構築	二者面談、三者面談の充実と、必要に応じた学年主任面談を実施する 保護者説明会の充実と、担任との情報交換を密に行う	
	理数コース	理数ゼミの充実	進路実現に繋がる課題研究の質の向上	理数会議において学年を超えた指導体制を構築し、指導にあたる 理ゼミ担当者および理科・数学科・情報科で互いに連携し指導にあたる	SSH部実施BeforeAferアンケートによる実態把握
		校外の機関との連携	大学との連携や外部の発表会への出席数の増加	大学関係者との連絡を密にとり、専門的な指導が受けられる体制を整える 校外における研究発表の機会を生徒に多く案内をして参加を促す	
		理数コースの活動の情報発信	広報誌SSHやHPでの記事の充実	理数コースに関わる行事を広報誌およびHP、その他の媒体を使い周知を図る 中学生理数セミナーの生徒TA等、校外向け行事で理数生徒の参加機会を増やす	